



辺野古新基地NO! 県民投票 沖縄県民の意思明白!

2月24日に投開票された沖縄の県民投票で、名護市辺野古沿岸部埋め立ての是非が問われました。



投票率52.48

%、「反対」が有効投票数の72.15%と投票の7割が建設反対、目標であった有権者の4分の1を超え、はっきりと米軍基地建設反対の意思を表明しました。

この結果を巡っての全国紙報道は住民投票そのもののスタンスの違いが際立ちました。

朝日、毎日や日経は県民の意思は建設反対を明らかにしたと報じましたが、読売は「投票率52% 広がり欠く」という見出しで、過去の全県選挙と比較し「県民の参加は広がりを欠き、影響は限定的なものになりそうだ」と自民・公明が投票に反対し、それを明らかにできないため、不参加戦術を採ったにも拘わらずこの結果になったことを無視。産経は「『反対』は全有権者の過半数どころか、4割にも満たなかった」(25日)、「有権者6割『反対』せず」(26日)などと懸命に否定的に描いています。

玉城デニー知事は結果を踏まえて、辺野古の新基地建設反対の県民の意思は明白だと日本政府とアメリカ政府に伝えて、その尊重を迫りました。

安倍総理はここまで追い込まれても、予定通り進めると頑なですが、軟弱地盤が明らかになって、慌てて地盤改良工事を検討しています。地盤を固めるために約7万7000本の杭を打ち込んで支えるという砂上の楼閣ならぬ「泥上の楼閣」です。そのための費用は沖縄県の独自の試算で1500億円。

憲法には地方自治が謳われています。明らかな憲法違反です。安倍内閣は地方の時代とか地方創生などと言いながら、全く沖縄県民の意向を無視するばかりか、その意思表示さえ弾圧しているのです。

安倍総理がトランプをノーベル平和賞に推薦!

驚きです。これぞフェイクニュースかと思ったら、推薦を受けたことをトランプ自ら語った。オバマ前大統領に強烈な対抗意識を持っているトランプは、保健制度や環境問題などをはじめ、オバマの業績をことごとくひっくり返そうとしているように見える。そしてオバマがもらったノーベル賞を自分も欲しいと推薦を頼んだようだ。似た者同士だから?お互いに讃え合うのだろうが、それをまさかこんな形で暴露されてしまうとはあの強シンゾウの晋三氏もびっくりしたのではないだろうか。

毎回のように問題の人物を推薦したり、授賞したりするノーベル平和賞。本当に世界の平和に貢献し、受賞した人がどんどん色褪せていく。まだトランプが受賞したわけではないが、世界に不安材料をばらまき、民族、人種を差別し、対立を煽ってきた人物を平和の担い手とほめたたえる安倍氏。その感覚で憲法を壊し、「美しい日本」を作ろうと言うのだから恐ろしい未来が透けて見える。安倍氏がどのように選考委員会に賛辞を送ったのか不明だが、米朝の融和が理由なら、米朝会談後のトランプと電話し決裂を直ちに歓迎したというのも矛盾だ。この機会にノーベル平和賞は止めたらどうだろう。

トランプ窮地

アメリカ議会下院は公聴会を開きトランプ大統領の腹心と言われた弁護士のコーエン氏が証言した。



◆トランプ氏の指示で彼の学校時代の成績を公開しないよう出身校を脅せとトランプ氏から指示された。◆トランプ氏の指示で個人や団体を脅したのは100回や200回ではない、多分500回くらい。◆トランプの不倫相手のポルノ女優との関係を隠すために違法な額の口止め料を支払った◆ロシアの関係者やウィキリークスが民主党に不利な情報をハッキングして流してくれたと喜んだ……などを証言。コーエン氏は「私は自分の弱さと誤った忠誠心、トランプ氏を守るためにとった行為を恥じている。トランプ氏は人種差別主義者、詐欺師、ペテン師だ」と語り、大統領は過去に「黒人はばかなので、自分に投票することはないだろう」などと語ったと暴露。はたして弾劾までいくのだろうか。

米朝会談決裂

異例の出来事だ。ベトナムの地を借りて米朝が会談。ベトナム国民と政府は成功を信じて大歓迎をしそれに協力した。

ベトナムはあの激しいベトナム戦争を戦い、独立を勝ち取った国であり、その後アメリカとも国交を回復し、経済も開放政策を採って発展させてきた国だ。金正恩にとっても今後の自国の行く末を考えるモデルとして学ぶことが多いと言われている。列車に乗って長時間かけてやってきた期待も大きかったはず。だが結末は用意された食事会も開催されず。



共同声明も出されなかった。しかし両者とも決裂とは言わず。「合意に至らず」「生産的な話し合いだった」

などと表現し相手を非難することを避けている。いったい何があったのか。

一般に首脳会談が行われる場合、事前に綿密なすり合わせが水面下で行われ、合意文書も作成される。

したがって首脳会談はその確認と発表のセレモニーとなる舞台だ。ところが今回は米朝ベトナムそれぞれがお祝いムードを盛り上げてきた会合が突然崩れたのだ。米朝ともに大きな外交的失敗だ。

勝手に原因を憶測することは避けたいが国元の米議会では大変なことが起こっており、気もそぞろだったはずといわれる状況も無関係ではなさそう。またこれで決裂したと断定することも避けたい両者それぞれの国内の大きな課題を抱える事情もある。なんとか外交で成果を上げたいのだともいわれる。

国内に問題を抱えていると、外にことを構えて国民の不満をそらせ、そのために戦争を始めた例は数知れない。今はそれを戦争でなく平和の実現でこそ競うようにさせることが必要だろう。

5月18日(土)

13:00開場 13:30開演



「憲法9条の改憲は自衛隊のためなのか」

～元自衛官が現場目線で考える～

お話: **井筒高雄**さん

(元自衛隊員 PKO派兵を機に退職)

流山市生涯学習センター

資料代500円 学生・生徒無料

世話人

自己紹介

私は二年前、厚木市から東深井に転居してまいりました川村末子です。

生まれは石川県七尾市で1947年の元旦生まれです。長年、気ままな一人暮らしでしたので、息子家族(5人)との生活に戸惑う毎日でしたが、ようやく家族の一員として落ち着けるようになりました。

結婚後就職した会社は、ステンレス鋼などの卸問屋で、加工工場の在庫管理・工程管理・配車管理・財務管理などをやり、つつい仕事にのめり込んでいきました。これが原因で家庭不和となり、離婚・失業・住まい・息子の転校などで埼玉県に転居、1986年のことでした。

元同僚から会社を立ち上げの誘いを受けて参加し、順調な経営も阪神・淡路大地震でメーカー契約の材料入荷が大幅に遅れる事態となり、大打撃をうけ、後期の経営は経費削減などで切り抜けるも好転するに至らず、会社を解散することにし、大手商社本体から切り離された伊藤忠丸紅特殊鋼が引き受けてくれることになって長い緊張から開放されました。

九条の会へは、中国留学から帰国して晴耕雨読を決め込んでいるところに「厚木革新懇」をたった一人で立ち上げた小池さんが訪ねて来たのがきっかけで、革新懇の話と合わせて「あつぎ・九条の会」に同時入会しました。気ままな一人暮らしが功を奏して(?)自宅をたまり場で提供したり、ネットワーク会議での情報報告や意見交換でワイワイやっていました。

「九条の会・流山」の世話人をお受けしましたが、時間が思うように取れずどうしたものか?と思案中です。

川村末子

お願い

左記の流山憲法集会(5月18日)の宣伝のチラシができました。

皆様のご近所や関係しているサークルなどいろいろな形で配布に是非ご協力ください。とりあえず2万枚を印刷しました。世話人、事務局にご連絡くださればお届けします。何枚でも結構です。

おおたかの森駅宣伝と署名

3月9日(土)15:30~16:30
(4月は9日(火)です)

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会流山